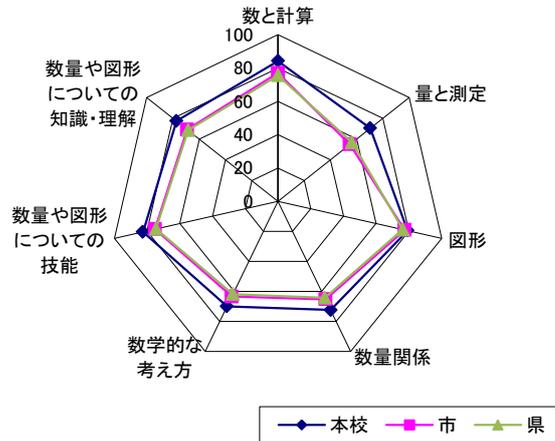


宇都宮市立西原小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	84.2	77.0	75.6
	量と測定	70.3	54.8	56.5
	図形	79.2	77.4	76.3
	数量関係	72.5	65.3	64.3
観点	数学的な考え方	70.1	63.5	61.9
	数量や図形についての技能	82.5	75.2	74.5
	数量や図形についての知識・理解	77.4	69.1	68.4



★指導の工夫と改善 (○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの)

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>他の領域に比べて平均正答率が高く、県や市の平均正答率よりも上回っている。</p> <p>○全13問のうち11問の正答率が8割を超えており、基本的な計算の習熟を図ることができている。授業や家庭学習で、計算ドリルを繰り返し用いている成果であると考えられる。</p> <p>●正答率が上位の児童でも2位数×3位数の計算に誤りがあったので、基本的な計算を確実に行うことに課題が見られた。</p>	<p>・普段の授業において、見直しをしたり確かめ算をしたりするように声をかけ、簡単な問題であっても間違いなく解けているかを確認するよう指導していく。</p> <p>・数直線上に示された数を読み取ることに課題がみられた。1目盛りが表している大きさの読み取りを丁寧に指導したり、整数や分数、小数など色々な数を数直線上に表す活動を取り入れ、数の理解を深めていけるよう指導していく。</p>
量と測定	<p>○四角形の面積を求めることや、面積のm^2とcm^2の単位の関係を理解することがよくできている。昨年度、面積の単元の途中に、単位変換が苦手な児童に対し個別に対応したり、単位変換の問題をミニテストで何度も行った成果であると考えられる。</p> <p>●身近にあるものの面積を推察したり、角の大きさに見当をつけたりすることについて課題が見られる。</p>	<p>・物の大きさを考えるときに、基準となる量の大きさに照らし合わせて、測定する物の大きさの見当をつける活動を取り入れていく。その際に、「○○○は△△△のいくつ分だから…」というような考え方を大切に指導する。</p> <p>・長さや重さなど物の大きさについて学習する際には、その大きさや量を実感できるような教具の工夫をし、児童に示すことができるように指導する。</p>
図形	<p>他の領域に比べ、県や市の平均正答率の差が小さい。</p> <p>○直方体や立方体について、平行な位置関係にある辺を選んだり展開図を選んだりすることがよくできている。昨年度の調査で図形に課題が見られたので、学年を通して丁寧に指導を心がけてきた成果だと考えられる。</p> <p>●四角形の対角線の性質を用いた問題やひし形を作図する問題に課題が見られる。</p>	<p>・作図をする際は1mm以内の誤差でかけるように、長さを丁寧に測ったりコンパスでかいたあとを消さずに残したりすることを徹底できるようにする。</p> <p>・手順を覚えて図形をかくのではなく、「対角線の長さ」や「平行な辺」、「等しい角」など、図形のもつ性質を色々な観点から考えて作図していくよう指導する。</p>
数量関係	<p>○問題のほとんどが思考・判断・表現を問うものであったが、解答欄が未記入である割合が低く、児童が自分の考えを積極的に文や式で表そうとすることができている。学校全体でノート指導を重視し、自分の考えを図や文で表したり友達と意見を交わしたりする活動に力を入れた成果であると考えられる。</p> <p>●2つの折れ線グラフを比べて、メモリの取り方の違いから発言が正しくないと説明することに課題が見られる。</p>	<p>・グラフから情報を読み取る技能はあるが、それを言葉でわかりやすく説明することができていないので、まず読み取れる情報を整理する力を育てたい。授業では、読み取った複数の情報を用い、友達に分かりやすく説明させるというような言語活動を多く取り入れていく。</p> <p>・今後もノート指導に力を入れ、日頃から児童の記述によく目を通し、順を追って自分の考えを説明できているかを確認したり、「○○ということから△△であると言える」といった説明の仕方を指導したりしていく。</p>